こころと身体のクリニック
医療法人社団
五稜会病院

スタッフ向け

共有スペースにおける
服装・患者間行動の対応基準
― 性的トラブル・患者間トラブルの予防 ―

目的

開放病棟では患者同士の交流に加え、病棟外では外来患者等と接触する機会があります。
患者間の性的トラブル、つきまとい・凝視等による不安、境界を越えた関係形成を予防し、すべての患者が安心して療養できる環境を維持することを目的とします。

1 病室外の服装

病室外（共有スペース）は、普段着またはジャージ等を基本とします。

以下の場合は、原則として着替え・身だしなみを整えるよう声かけします

	パジャマ・寝間着のまま共有スペースで過ごしている
	下着が見えている
	胸元等が大きくはだけている
	肌の露出が著しく多い
	極端に短いショートパンツ等
!	その他、共有スペースで過ごす服装として適切でない状態

- 性別によって判断基準を変えない。
- 急性症状、身体状態、衣類の不足等、個別事情がある場合は柔軟に対応する。

2 見る側・接触する側への対応

服装への対応と、他者への不適切な行動への対応は別々に行う。

以下の行為は認めない

- ✕ 特定患者を継続的に凝視する
- ✕ つきまとう・待ち伏せする
- ✕ 相手の行動を監視する
- ✕ 性的な発言・誘いを繰り返す
- ✕ 不必要な身体接触
- ✕ 相手の病室への無断入室
- ✕ 拒否された後も接触を続ける
- ✕ その他、相手が不安・恐怖を感じる境界侵害行動

▶ 必要に応じて、患者同士の距離を確保し、行動範囲・座席・活動時間等の環境調整を行う。

3 患者間の性的関係

病棟内における患者間の性的接触・性的行為は認めない。
本人が「同意している」と説明する場合でも、精神症状、認知・判断能力、依存関係、力関係、衝動性等を考慮し、単純に「双方同意」として処理しない。
必要に応じて主治医・看護師等、多職種で情報共有・評価を行う。

声かけのポイント

OK例

病室外は共用スペースです。
ルールとして普段着か
ジャージで過ごして
いただいています。
着替えをお願いします。

NG例

- ✕「男性がいるから、そんな格好はやめて」
- ✕「そんな格好だと見られてしまうよ」
- ✕「露出が多いと危ないよ」

- 性的被害の責任が本人の服装にあると受け取られる説明はしない。

4 訴えがあった場合の対応

「見られている」「つきまとわれている」などの訴えに対しては、最初から決めつけない。

❶ 本人の訴えを聴取 → ❷ 相手患者の行動確認 → ❸ スタッフ間の観察情報を共有 → ❹ 必要な安全確保

実際のつきまとい等が疑われる場合は、早期に患者同士を離すなど環境調整を行う。

共通原則

- ✕ 露出していたから見られた
- ✕ 本人もその気だった
- ✕ 精神症状だから気にしなくてよい

服装の問題と、他者から受けた不適切な行為は別問題として対応する。

性別・年齢にかかわらず、同じ基準で対応する。

⚠ 迷ったとき、判断が難しいときは、必ずチームで相談し、記録を残しましょう。

みんなが安心して過ごすために

病棟での服装・行動のお願い

この病棟では、さまざまな方が一緒に過ごしています。
お互いが**安心**して過ごせるよう、次のルールを守りましょう。

病室外は共用スペースです。

日中、病室から出るときは
パジャマ・寝間着から着替えましょう。

次のような服装は控え ましょう

- ✕ パジャマ・寝間着のまま
- ✕ 下着が見える服装
- ✕ 胸元などが大きくはだけた服装
- ✕ 短すぎるショートパンツなど、肌の露出が多い服装

体調などで着替えることが難しいときは、スタッフにご相談ください。

お互いの距離を大切にしましょう

次のような行動はやめましょう

- ✕ じろじろ見る・つきまとう
- ✕ 待ち伏せする
- ✕ 性的なことを言う・誘う
- ✕ 必要なく身体に触れる
- ✕ 他の患者さんの病室に入る
- ✕ 病棟内での患者さん同士の性的な接触・行為

お互いのプライバシーと心の安心を大切にしましょう。

困ったときは、いつでもスタッフに伝えてください

不安に感じることや、嫌なことがあったときは、一人で抱え込まずに、いつでもスタッフに相談してください。

服装にかかわらず、**嫌なことをされてよいということはありません。**

お互いの安心とプライバシーを大切にしましょう